

地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

佐賀県、福岡県を訪問しました！（１） 2021年12月、佐賀県、福岡県の自治体や国際交流協会、多文化共生に関わる団体などを取材した内容を今号と次号の2回に分けてご紹介します。福岡県古賀市は市役所に新たに多文化共生係を設置して市をあげて取り組みを開始。その他に国際協力の経験を活かしてこの地域で活動する団体を取り上げました。

古賀市（福岡県古賀市）

◆技能実習生や企業、高校生～人との繋がりで踏み出した古賀市の多文化共生

福岡県古賀市は、人口約6万人。工業製品、食料品の製造業が盛んで、交通の要所として栄えてきました。古賀市役所の国際交流・多文化共生係係長の**渋田典子**さんと**飯尾幸恵**さんにお話をうかがいました。

古賀市ではこれまで働き手不足が課題でしたが、近年、技能実習生が多く採用され、市の外国籍住民は5年で2倍に急増しました。永住者と技能実習生の両方の方への支援が必要になる中、令和2年度から同係が置かれました。最初に行ったのは、実態把握のためあらゆる現場へのヒアリングでした。庁内28課、30近い企業に訪問や電話をし、不動産会社



渋田さんと飯尾さん

や自治会、保育所や小中高校でも聞き取りを実施した結果、ネットワーク構築ができてだけでなく、技能実習生とも繋がりが持てたとのこと。実際に当事者の声を聴いて初めて何に困っているかがわかるということをヒアリングを通して実感したと言います。

多文化共生の事業の手始めは、技能実習生など外国人住民のための情報冊子の作成でした。そこで全国の自治体から関連冊子を集め、実習生に感想を聞いて回りました。その声を基に、当事者目線の情報を、壁に貼っていつでも見て、使ってもらえる生活情報リーフレット「こがとも」として、英語、中国語、韓国語、ベトナム語、やさしい日本語で制作しました。「10代後半から20代の若者である技能実習生たちが、働きに来るだけで終われるでしょうか。仮にそうだと人生の中で古賀市に来て、それだけで終わっていいのでしょうか」という思いを反映して、「こがとも」は実習生の生の声やアイデアが溢れ、日本人市民の参加も見取れます。

その他に、やさしい日本語の啓発事業。市内にある高校でベーシックデザインコースの生徒に、「やさしい日本語」啓発用の缶バッジデザインを依頼しました。ただデザインを依頼するだけでなく、古賀市の実状を踏まえながら「やさしい日本語」について一緒に学び、理解を深めました。若い柔軟な発想や感性を活かして高校生たちが考えたデザインを、市内の企業で働く約200人の外国籍の方に投票して選んでもらうという企画です。高校生の頃から社会の問題を知って、自分達に関わることで社会が変わる体験をすることが必要だという言葉に深く頷いてしまいました。



多言語情報リーフレット「こがとも」

取り組み1年目だからこそ先入観なくできたとも言えますが、市のあらゆるセクターの中で、熱い思いを持った人を見つけ出し繋いでいくお二人の姿勢に多文化共生の進むべきヒントを得たように思いました。今後の古賀市の取り組みとその姿が大変楽しみです。

古賀市「こがとも」はこちら <https://www.city.koga.fukuoka.jp/cityhall/work/community/036.php>

～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～



市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



地域に飛び出す市民国際プラザ！

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等の相談に対応しています。更に、各地の**先進的な活動**取材し、本ダイジェストでご紹介しています。

サワディー佐賀／(特活)地球市民の会 (佐賀県佐賀市)

◆九州全域の県を跨いだ少数言語コミュニティのプラットフォームを！

「サワディー佐賀」はタイからの留学生たちが大学間で接点がないことに対して、2018年に設立されたコミュニティです。2020年にオンラインでもお話を伺いましたが、遂に佐賀を訪問し、代表の山路健造さんに直接お話を伺うことができました。

2021年8月の豪雨災害の際に、県の対策本部がYouTubeで発信する情報の中から重要なものを、「地球市民の会」で山路さんがやさしい日本語にした後、タイ、ミャンマー、スリランカ等の少数言語の翻訳チームが翻訳したものを発信しました。これは2年前の災害で「サワディー佐賀」がタイ語の翻訳チームを形成して情報発信したノウハウを、「サワディー佐賀」や「地球市民の会」などが連携して他の言語に広げていったもの。翻訳チームによる発信は災害だけでなく、コロナ情報の発信や給付金の手続き動画の作成に活かされています。山路さん達は今、社会情勢が不安な中、九州全域で少数言語コミュニティのプラットフォームができないかと考えているとのこと。佐賀はコミュニティが小さいため知り合いが多く個人的な相談がしにくいという声もあり、母語ごとに県を跨いでオンラインでコミュニティを作ったり、支援し合ったりする仕組みづくりが求められているといいます。

佐賀県は現在CSO（市民社会組織）誘致に取り組んでいるとのことですが、以前からNGOやNPOが県と連携しやすい環境にあるとのこと。前述のプラットフォームの事業等、県を跨いだ活動を通じて、行政とNGO、NPOの連携が九州全域で活発化するのではないかと期待されます。

サワディー佐賀のウェブサイトはこちら https://peraichi.com/landing_pages/view/sawadeesagamain1/

NPO法人トゥマンハティふくおか (福岡県福岡市)

◆インドネシアへの国際協力を強みに日本で働くアジアの若者を支援

インドネシアの子どもの教育支援や福岡の国際化推進に取り組む同団体代表理事の弥栄睦子（みえちかこ）さんにお話をうかがいました。2002年、福岡に住むインドネシア人留学生らとともに、インドネシアの貧しい子どもたちに奨学金を送る活動を始め、2003年に任意団体を立ち上げました。2014年にNPO法人化。それまでの国際協力・国際交流活動に加え、国内の多文化共生にも取り組み始めました。近年は技能実習生への支援等、活動の幅が広がってきています。

「2019年度九州地域NGO活動助成金」を受けて実施した「職業性ストレス簡易調査票」の多言語による提供についてご紹介いただきました。言葉もよく通じない異国で働くことは大変なストレスです。技能実習生たちの気持ちを正確に把握するため母語でのストレスチェックが必要だと考え、東南アジア7か国（インドネシア語、ミャンマー語、タイ語、カンボジア語等）に翻訳して公開しています。弥栄さんは産業カウンセラーの資格もっており、今後は技能実習生のメンタルサポートもしていきたいそうです。

また、2021年5月にはバリ島の送り出し機関で日本語を勉強する技能実習生候補者たちと（日本語能力スキルアップのための）オンライン交流会を開催されました。日本の生活事情や、日本で働くことの意義、日本語の習得方法についてアドバイスをしたそうです。コロナ禍で、オンラインで海外と繋がる楽しさを実感しつつも、コロナが落ち着いたら現地の送り出し機関に行き現状を調査したいと考えておられるようです。

トゥマンハティふくおかのウェブサイトはこちら <https://temanhati.jimdofree.com/>



2021年11月に開催した多文化共生ワークショップ。技能実習生たちも多数参加した。